

## 福井市自立支援協議会 こども部会 課題提起シート

課題提起者名（所属）津田明美（福井県こども療育センター）

課 題	<p>※「～が必要である。」という書き方にしてください。</p> <p>多機関で支援を受けている児の支援体制の検討をする機関が決まっていない モニタリングの一環として相談支援専門員に依頼でいいのかどうか不明</p>
概 要 及 び 現 状	<p>【概要】 診断済、保護者への告知済。現在、医療の介入不要。といった児の相談が学校での支援体制（学校内での指導、放デイの指導のすり合わせ不足）であることがある。</p> <p>【現状】 学校内の体制については、当センターは特セに依頼している（本来は教育では、通常級在籍の児は特セ、支援級・通級の児は特別支援学校であるが、特セとの取り決め） 学校での指導と児が利用する放デイの支援計画とかすり合わせされていない。学校の検討会議に福祉が呼ばれていない。</p>
改 善 の 方 針	<p>特セ、特別支援学校といった教育の指導的立場のあるところから、学校現場での開催の会議に福祉資源の会議の参加を要請していただく。</p>
具 体 的 な 取 組 内 容	<p>【取組内容】 特セ、支援学校の「特別支援学校「センター的機能」情報交換会で教育での支援会議に福祉の参加を要請する、としてはどうか？ 福祉がその要請に応えることができるかどうか、事業所連絡会等での検討が必要</p> <p>【理由】 福祉は出来高制の収入。検討会参加の経費についての問題がある？</p>
期 待 さ れ る 効 果	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療が本来の医療でのみ可能なこと（診断）に力を注げる。受診待機時間を短縮できる</li> <li>・児の支援体制が整う。家庭、障害福祉と教育との連携が進む。 （トライアングルプロジェクト）</li> </ul>